

第二十四回「小諸館外投句賞」入選

順不同
敬称略

発表 令和六年十月二十五日 市立小諸高濱虚子記念館

〈一般の部〉

特選

仲直りしてくれますか薄荷水

札幌市

佐藤 信太

秋日和浅間のやうな力又し食む

須坂市

湯澤 悠奈

座す膝のもくらもくらと享保雛

上田市

田中 和子

虚子庵を三度訪ねて日向ぼこ

富士吉田市 宮下 栄江

第二十四回小諸館外投句賞

〈一般の部〉

佳作

春風に一期一会の頁あり

松江市 宮本朝陽香

新蕎麦にありつく小さき駅舎かな

蒲郡市 石田 賢吾

口笛を吹けばコスモス揺れる宿

横浜市 谷元 博樹

野沢菜を漬けし母の手波のよう

川口市 奥村 夏帆

少し身をのりだし注ぐ甘茶仏

千曲市 中村 哲平

いろはもみぢ荒神井戸に降り積り

八王子市 沼田 布美

三々五々客あり柿は門を守り

小野市 小林 春雪

雨つぶをのせて幽けき野紺菊

佐久市 大草 通則

第二十四回小諸館外投句賞

〈小中学生の部〉

特選

静寂の夜と昼間のセミのこえ

横浜市

山田優理果

雨音に猫も欠伸す夏の宵

江戸川区

信田 琴春

佳作

春の空夕日が赤いみごとだな

八王子市

松崎 侑那

桜の葉生い茂るのも美しい

戸田市

峯岸 泰希